

2019年8月
国立映画アーカイブ

展覧会

映画雑誌の秘かな愉しみ

The Discreet Charm of Film Magazines

2019年9月7日(土) - 12月1日(日) *月曜日、9月23日(月・祝)~30日(月)は休室です。

国立映画アーカイブ 展示室(7階)

主催：国立映画アーカイブ 協力：群馬県太田市立新田図書館



明治時代発行の「活動写真界」や、100年前に創刊された「キネマ旬報」創刊号など、貴重な日本の映画雑誌を多数展示！

本年は、現存する日本初の映画雑誌「活動写真界」の創刊(1909年)から110年、そして現在も続く「キネマ旬報」の創刊(1919年)から100年の節目を迎えます。そこで国立映画アーカイブでは、映画の本をテーマにした「シネマブックの秘かな愉しみ」展(2015年)に続き、映画雑誌の豊かな歴史に焦点を当てた展覧会を開催いたします。

映画が新しい視覚メディアとして普及し始めた明治末期以来、その発達と歩を合わせながら、広範な話題を提供する総合誌、スターや映画会社のファン雑誌、映画の言論空間となった評論誌、製作や興行の動向を伝える業界誌、そして特定の主題に焦点を絞った専門誌など、あまたの雑誌が生み出されてきました。ページを開けば、どの時代の雑誌の誌面にも、映画に対する読者の愛情と書き手の情熱、そして編集者たちの志を認めることができるでしょう。

インターネットの普及が情報伝達のあり方を大きく変えた今日、映画雑誌は転機を迎えています。しかし、長い年月の中で培われてきた映画雑誌の役割やスタイルは、様々な変遷を経ながら、今も確実に生き続けています。この展覧会では、明治・大正期から近年まで、多種多様な日本の映画雑誌を展示いたします。先人たちが情熱を傾け、試行錯誤しながら積み重ねてきた映画雑誌の歴史に触れることで、多くの方々が映画の愉しみを再発見する機会となれば幸いです。

詳細は次ページへ

展示の構成と見どころ

明治時代に始まる日本の映画雑誌の歴史を、5つのコーナーで構成した約400点の資料でたどります。

1 日本の映画雑誌の誕生

このコーナーでは、今から110年前の1909年（明治42年）に創刊された、現存する日本最初の映画雑誌「活動写真界」のうち、国立映画アーカイブが所蔵する4冊の展示を中心に、明治から大正にかけて創刊された映画雑誌をご覧いただけます。

2 「キネマ旬報」の100年

日本を代表する映画雑誌「キネマ旬報」は今年で創刊100周年を迎えました。当時500部しか発行されなかった貴重な創刊号を展示します。そして戦前戦後の中断をはさみながらも歴史を積み重ねてきた「キネマ旬報」の歴史をたどります。

3 戦前の映画雑誌

1930年代、映画雑誌は戦前の最盛期を迎えました。人気スターの名を冠した〈スターファン雑誌〉や、映画会社を応援する〈スタジオ雑誌〉、そして大判の〈グラフ誌〉が人々を魅了し、地方在住の映画ファンや大学の映画研究会は、自ら雑誌を発行してその想いを発信しました。しかし戦時体制が強化されると、映画雑誌は統合でその数を大幅に減らしました。戦前・戦中の波乱に満ちた時代の映画雑誌をご覧いただけます。

4 戦後の映画雑誌

戦後の解放的な空気の中で、新しい映画雑誌が次々と創刊されました。日本の映画産業とともに映画雑誌も着実に復興して、戦後の黄金時代を迎えました。その一方、映画雑誌は言論活動の舞台として多彩な論争が繰り広げられました。様々な変遷を経ながら常に映画ファンとともにあって、その関心を掘り起こすために変わり続ける映画雑誌の近年の展開にも目を配ります。

5 映画雑誌と映画史研究

映画史研究と映画雑誌は切っても切り離せない関係にあります。映画作品や製作関係の直接的な資料を別とすれば、映画雑誌は時代時代の映画とその環境を知るための第一級のドキュメントであり続けています。このコーナーでは、映画史研究の成果を雑誌の形で発表した人たちの活動や、映画雑誌自体の全体像を捉えようとした先人たちの軌跡をご紹介します。



⑥



⑦



⑧



⑨



⑩

トークイベント 映画雑誌小講座

■2019年9月21日(土)

「日本の映画雑誌事始め」

トーク 本地陽彦(国立映画アーカイブ客員研究員)

■2019年10月19日(土)

「戦後、映画雑誌の黄金時代をめぐって」

対談 佐藤忠男(映画評論家・日本映画大学名誉学長)× 高崎俊夫(書籍編集者・映画評論家)

■2019年11月16日(土)

「いま、映画雑誌とは」

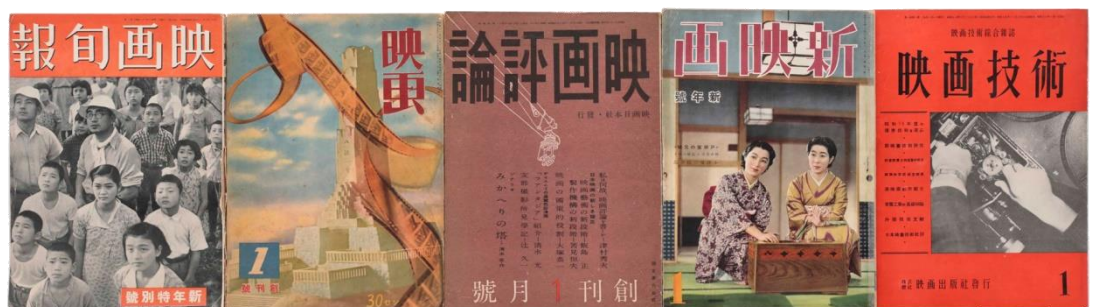
対談 田野辺尚人(「別冊映画秘宝」編集長)×平嶋洋一(株式会社キネマ旬報 DD エディター)

※時間・場所は決まり次第、HP・SNS等でお知らせいたします。

※申込不要、参加無料(展示室内で開催のトークは、観覧券が必要です)



⑪



⑫

開催概要



展覧会名	映画雑誌の秘かな愉しみ The Discreet Charm of Film Magazines
	主催：国立映画アーカイブ／協力：群馬県太田市立新田図書館
会期	2019年9月7日（土）－12月1日（日）
休室日	月曜日、9月23日（月・祝）～30日（月）は休室です。
開室時間	午前11時－午後6時30分（入室は午後6時まで） *毎月末金曜日は午前11時－午後8時（入室は午後7時30分まで）
会場	国立映画アーカイブ展示室（7階）
アクセス	東京メトロ銀座線京橋駅下車、出口1から昭和通り方向へ徒歩1分 都営地下鉄浅草線宝町駅下車、出口A4から中央通り方向へ徒歩1分 東京メトロ有楽町線銀座一丁目駅下車、出口7より徒歩5分 JR 東京駅下車、八重洲南口より徒歩10分
料金	一般250円（200円）／大学生130円（60円）／シニア・高校生以下及び18歳未満、障害者（付添者は原則1名まで）、国立映画アーカイブのキャンパスメンバーズは無料 *料金は常設の「日本映画の歴史」の入場料を含みます。 *（ ）内は20名以上の団体料金です。 *学生、シニア（65歳以上）、障害者、キャンパスメンバーズの方はそれぞれ入室の際、証明できるものをご提示ください。 *国立映画アーカイブの上映観覧券（観覧後の半券可）をご提示いただくと、1回に限り団体料金が適用されます。 *2019年11月3日（日・祝）「文化の日」は、展示を無料でご覧いただけます。
イベント	トークイベント 映画雑誌小講座 ■2019年9月21日（土）「日本の映画雑誌事始め」 <トーク> 本地陽彦（国立映画アーカイブ客員研究員） ■2019年10月19日（土）「戦後、映画雑誌の黄金時代をめぐる」 <対談> 佐藤忠男（映画評論家・日本映画大学名誉学長）× 高崎俊夫（書籍編集者・映画評論家） ■2019年11月16日（土）「いま、映画雑誌とは」 <対談> 田野辺尚人（「別冊映画秘宝」編集長）× 平嶋洋一（株式会社キネマ旬報 DD エディター）
お問合せ	03-5777-8600（ハローダイヤル）
HP	https://www.nfaj.go.jp/exhibition/filmmagazines/

【本展覧会に関するお問合せ】

国立映画アーカイブ 上映展示室 白鳥・濱田・岡田
〒104-0031 東京都中央区京橋 3-7-6 TEL:03-3561-0823 FAX:03-3561-0830 pr@nfaj.go.jp

広報用画像&読者プレゼント招待券申込書

「映画雑誌の秘かな愉しみ / The Discreet Charm of Film Magazines」

送付先	国立映画アーカイブ 上映展示室 広報担当行 メール : pr@nfaj. go. jp FAX : 03-3561-0830
------------	---

* 広報用画像をご希望の方は、本プレスリリースに掲載されている画像右下の番号をご参照の上、貸出を希望されるデータの口にチェックをつけ、上記の宛先までをご送付ください。

<input type="checkbox"/>	①	「活動写真界」1911年11月(第26号)
<input type="checkbox"/>	②	「キネマ・レコード」1916年11月号
<input type="checkbox"/>	③	「キネマ旬報」1919年7月11日創刊号 群馬県太田市立新田図書館所蔵
<input type="checkbox"/>	④	「映画時代 アラモード」1932年3月号
<input type="checkbox"/>	⑤	「スタア」1940年最終号
<input type="checkbox"/>	⑥	「スクリーン」1946年5月創刊号
<input type="checkbox"/>	⑦	「季刊フィルム」1968年10月創刊号
<input type="checkbox"/>	⑧	「ロードショー」1972年5月創刊号
<input type="checkbox"/>	⑨	「アニメージュ」1978年7月創刊号
<input type="checkbox"/>	⑩	「映画秘宝」1995年7月(第1号)
<input type="checkbox"/>	⑪	戦前の代表的スタジオ雑誌
<input type="checkbox"/>	⑫	戦時下の代表的映画雑誌
<input type="checkbox"/>	⑬	展覧会チラシ

画像データ貸出希望日時	月	日	時頃までに希望
読者プレゼント招待券	組	名(合計)	枚) 希望します

プレス・イメージ貸出条件

1. 画像は、展覧会紹介の目的にのみご使用ください。2. データを第三者に渡すことは禁じます。使用后、画像データは消去してください。3. 展覧会の名称、期間、会場は、適切な場所、大きさを明示していただくようお願いいたします。4. 作品画像は全図で使用してください。部分使用やトリミング、作品に文字を重ねることはできません。5. 画像を掲載される際には、イメージ貸出時に添付するクレジットをご記載ください。6. 掲載紙(誌)は、1部、広報担当宛にご寄贈ください。webサイトの場合は、掲載時にお知らせください。* 画像データ(JPEG)にてお貸出いたします。その際、一緒にお送りするキャプションもご確認ください。* 掲載前に、校正紙をお送りください。お送りいただけない場合、掲載内容についての責任は当方では負いかねます。

お名前： _____ ご所属・媒体名： _____

出版物・放送番組名： _____

TEL： _____ FAX： _____

メールアドレス： _____